

梯川氾濫を想定した災害派遣医療活動の対応力向上研修

- 石川県では、災害派遣医療チームの局地災害対応力の向上を目的とした研修を行っており、その一環として梯川氾濫を想定した医療活動演習（ワークショップ）を平成29年1月15日に実施
- 演習にあたり、金沢河川国道事務所が『避難行動の留意点や水害対応事例』等を説明
- 演習では、医師、看護師、業務調整員からなるチームにより、被災地の病院や要介護者利用施設等を把握して、「どこに」「どれだけ」「どのように」して医療活動の支援等を実施するのか、洪水ハザードマップ上でシミュレーションを実施

概要説明



演習状況



演習内容(ワークショップ)

設問1 安全管理(リスクと対策)について考えよ

- ・リスクとしては、**溺死・孤立**。
- ・対策としては、消防や自衛隊との**連絡手段の確保**、**緊急待避**及び救命胴衣等の準備。
- ・特に**活動場所とアクセス**が一番の問題。国道がどうなるのか。小松市内の入院患者等が外に出られるか。金沢や福井から医療チームが入れるのか。

設問2 災害時に収集すべき情報 (METHANE) を考えよ

- ・危険区域は**洪水ハザードマップ**で1階が浸水する各施設。
- ・初期対応は、各施設の**ライフラインの状況**を確認。その結果により、籠城か、避難かを判断する。

※METHANEは、情報項目の英語頭文字。事故発生、発生場所、災害種類、二次災害の恐れ、現場までのルート、被災者数、緊急活動の必要性等を意味する

設問3 指揮と連携を考えよ (Command & Control)

- ・**指揮系統**や責任の所在を明確にするため、本部は一つ。
- ・**孤立時は空路搬送**が主。防災ヘリ、自衛隊ヘリと連携のため、小松空港に医療拠点を配置。
- ・浸水エリア外の海側や山側の病院にも**参集拠点を考える**。
- ・**各拠点へのアクセス**が大切。また、排水活動による**早期の道路復旧**も重要。

設問4 籠城を余儀なくされる病院に対しどのような活動が必要か

- ・3日間の籠城の支援を考えると、水の不足が考えられる。**ペットボトル**や**給水車**などが必要。
- ・水が不足するなか、透析患者、重症患者を外に**どう搬送するか**。
- ・**自家発電**の安定稼働の対応。
- ・病院**スタッフの疲労**を踏まえた災害派遣医療チームの支援。
- ・水害は予測可能なので、水位による**待避基準**が必要。